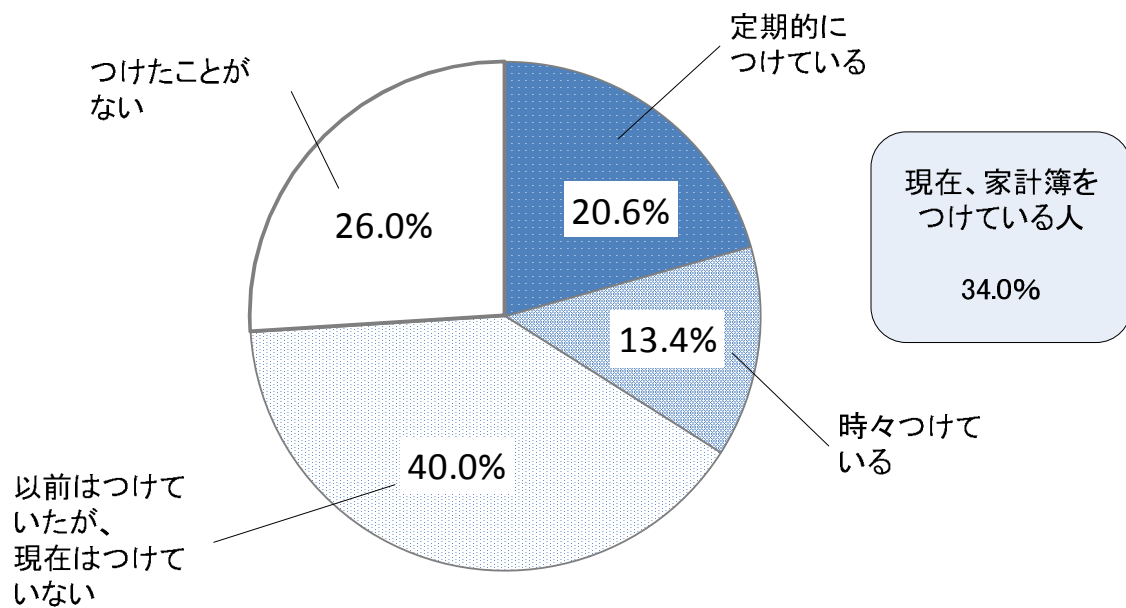


### 3. 家計簿をつける

#### (1) 家計簿をつけている人は約3分の1

家計簿をつけているかどうかをたずねたところ、20.6%の人が「定期的につけている」、13.4%の人が「時々つけている」と答え、合計すると、全体の約3分の1の人が家計簿をつけている。最も多かったのは、「以前はつけたことがあるが、現在はつけていない」という人で、約4割を占めている。家計簿は、つけ始めることよりも、つけ続けることに難しさがあることがわかる。

図表 3-1 家計簿の記帳状況



N=1,949

## (2) 子どもの成長の節目に、家計簿をつけ始める？

子どもがいる有配偶の女性を対象に、子ども（長子）の学齢と家計簿の記帳状況との関連を調べた。図表 3-2 は、長子の学齢別に、未就学児の世帯、小学生の世帯、中学生以上の世帯の 3 つに分けて、家計簿の記帳状況を示している。

その中で、「定期的に家計簿をつけている」世帯の割合は、子どもが小さいときに大きく、小学生になるといったん小さくなるものの、中学生以上になると大きくなっている。

このことから、家計簿をつけようという気持ちになるきっかけとして、2つのタイミングがあることがうかがえる。第一に、子どもが生まれ、生活のあり方が変わる中で家計管理に努めようというタイミングである。そして第二に、子どもが中学生以上になり、教育費などの支出が増えていく中で、改めて家計管理の必要性が痛感されてくるというタイミングである。実際、中学に進学したとき、第 1 子一人あたりの教育費の変化を調べると、年間の教育関連費が平均 12 万 6 千円増加していた。実際の負担増を機に、家計を見直すため家計簿をつけるきっかけになっていると考えられる。

図表 3-2 子ども（長子）の学齢と家計簿の記帳状況

